

香港株式市場フラッシュ

資金流入が見込まれる「科創板」

リサーチ部 李一承
Tel: 03-3666-0707
E-mail: icheng.lee@phillip.co.jp

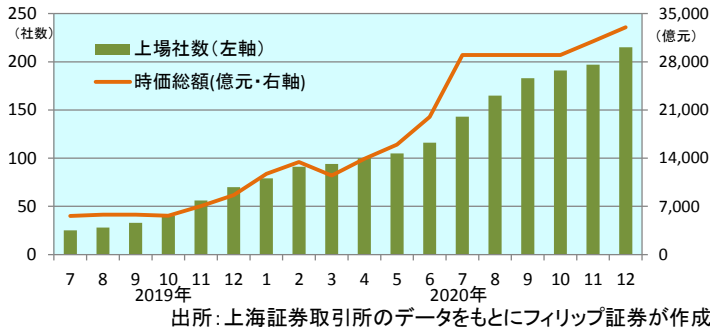


2021年1月26日号(1月25日作成)

「科創板」の時価総額が約6倍に拡大

中国版ナスダックと称される上海証券取引所の「科創板」(スターマーケット)は2019年7月に上場社数25社で開始後、20年末に上場社数が215社となり、時価総額も開始当初の5,600億元から20年末に3.3兆元に拡大した。平均PERは開始当初70倍前後だったが創設1年後の20年7月頃には150倍前後に上昇し、足元では100倍前後で推移。また、コロナ禍においてハイテク成長株優位の流れに乗ったことも科創板のプレゼンス拡大に寄与した。

「科創板」の上場社数、時価総額の推移



「科創板」の2020年7-9月期業績が好調

科創板上場企業の2020年7-9月期決算は好調。データ会社win.dによると、科創板上場191社の2020年7-9月期決算の純利益増加率(前年同期比)は63.0%と、同1-3月期の19.3%、同4-6月期の28.3%から加速。中国A株上場4000社の7-9月期の▲6.5%とは好対照を成した。また、2020年1-9月期決算では、バイオセクターが同32.3%増収(256億元)、同470%の最終増益(43億元)となり、ITセクターが同24.0%増収(1,215億元)、同68.6%の最終増益(123億元)となるなど、両セクターが牽引している。

2020年2月に上場した東方生物の20年末までの上昇率が855%に達したほか、バイオセクターや新世代ITセクターが株価上昇率の上位を占めた。なお、科創板創設後から20年末まで全銘柄の平均上昇率は131%に上り、同期間の上昇率は上海総合指数(20%)や深圳総合指数(52%)を上回った。

科創板の上場後累計値上がり率上位10社(2020年末基準)

銘柄名(コード)	業種	上場後累計値上がり率(%)	2020年の年間値上がり率(%)
東方生物(688298)	バイオ	855	855
金山办公软件(688111)	新世代IT	796	151
滬硅産業(688126)	新材料	751	751
安集科技(688019)	新世代IT	660	126
龍騰光電(688055)	新世代IT	587	587
国盾量子(688027)	新世代IT	551	551
固德威(688390)	新エネルギー	527	527
睿創微納(688002)	新世代IT	455	192
心脈医療(688016)	バイオ	443	71
中微公司(688012)	新世代IT	443	71

出所: 上海証券取引所の公表データをもとにフィリップ証券が作成

「科創板」が人気沸騰の中国本土IPO市場

現地紙によると、2020年のIPOは、上海証券取引所で実施企業数が233社、資金調達総額が3,477億元となり、深圳証券取引所で実施企業数が150社、資金調達総額が1,133億元に上った。これにより世界の証券取引所のIPO資金調達額ランキングで上海が第3位、深圳が第5位となった。うち、科創板は資金調達総額で2,226億元と中国本土IPO市場の5割を占めた。20年7月に科創板でセカンダリー上場を果たした香港上場のSMIC(981)の調達金額が532億元となり、上海・深圳メインボードIPOで最大だった京滬高速鉄道の307億元を上回った。将来性のある新鋭企業が挙って科創板上場を目指す流れが今後一層強まろう。

科創板上場企業(全215社)を業種別でみると、新世代ITが89社、バイオが46社、ハイエンド設備が44社と続く。20年の科創板IPO資金調達額でも新世代ITの1,225億元を筆頭に、ハイエンド設備364億元、バイオ468億元が後を追う。この3セクターのIPO調達金額合計が全体の92.3%を占めており、科創板は名実ともに中国版ナスダックと呼ばれるに相応しい内容を備えたと言えよう。

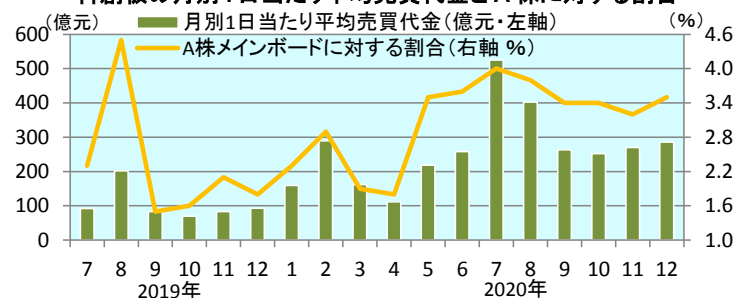
「科創板」もストック・コネク(滬港通)の投資対象として解禁へ

香港取引所によると、本土市場を通じて香港市場の上場株を売買する制度である「サウスバウンド」(港股通<こうこうつ>)は、20年の買越し額が6,751億香港ドル(約5,600億元)に上った一方、香港から上海や深圳の中国本土株に投資する「ノースバウンド」(滬股通<ここうつ>、深股通<しんこうつ>)の買越し額が2,089億元にとどまった。中国本土市場に上場しないテンセント(770)や美团(3690)など人気銘柄の有無が明暗を分けているとみられる。

そうしたなか、上海証券取引所が昨年11月、科創板上場6銘柄を中国A株のうち規模や流動性の高い上位180銘柄で構成されるSSE180指数へ組み入れたほか、香港と上海の株式相互取引である「ストックコネク」(滬港通<ここうつ>)による科創板への投資解禁方針を明らかにした。同時に、香港上場のバイオテクノロジー企業も中国本土からのサウスバウンドの対象に組み込む方針だ。

科創板の月別の1日当たり平均売買代金は創設直後の92億元から20年末に286億元に拡大したほか、A株メインボードに対する売買代金の割合も2.3%から3.5%に上昇。足元では、上場企業215社のほか、約109社が上場審査を通過した模様。今後市場の厚みが増していくに伴い、科創板が本土市場活性化の主役として内外から大きく注目されよう。

科創板の月別1日当たり平均売買代金とA株に対する割合



【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL: 03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘
リサーチ部 李 一承

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平 14.1.25」に基づく告知事項>
本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。